

被災地支援「ボランティアバス」で、 宮城県石巻市へ。

「少しでも力になりたい」という思いを胸に

大阪府社会福祉協議会では、4月25日～29日の5日間、被災地を支援する「ボランティアバス」を運行しました。参加したのは府内各地からの40人の皆さん。年齢も職業もさまざまなたちが「少しでも被災者の役に立ちたい」との思いを胸に、石巻でボランティア活動に取り組みました。

「東北への恩返し」「神戸で助けられたお礼に」と、参加動機はさまざま

「ボランティアバス」に参加したのは19歳～67歳までの40人(男性24人・女性16人)。一般のサラリーマンや学生だけでなく、看護師、消防士、美容師、さらには僧侶や元自衛官など実に多様な顔ぶれで、その参加動機もさまざまです。

「福島に住んでいた兄が大坂まで避難する道中で多くの人に助けられたので、そのお礼のつもりで」と語るのは上田敦さん。一方、「自分を育ててくれた東北への恩返しがあったくて」と参加した青森出身の看護師・甘利志賀子さん。未だ行方不明の友人がおられるそうです。

阪神大震災で被災した会社員の岡野欣子さんは、「お世話になったお返しのため」と、ご夫婦そろっての参加です。一方「神戸のとき何もできなかったのが、今度こそはと思って」と語るのは東谷麻代さん。募金や献血以外にできることを探していたといいます。

今回は「ボランティアバス」の運行が新聞で紹介されたこともあり、募集開始直後に定員に達し、キャンセル待ちが出るほどに。あらためて、市民のボランティア熱の高まりが感じられます。

「何か役立ちたい…」「少しでも力になれば」という、そんな皆さんの熱い思いを乗せて、ボランティアバスは4月25日の夜、中央区谷町の大阪府社協前を出発しました。

「元気が出た」という被災者の言葉に、泥かき作業の疲れもどろかへ

バスは翌朝9時、石巻市八幡町に設けられた、災害ボランティアセンターの「サテライト」の一つに到着。石巻市社会福祉協議会が運営する石巻市災害ボランティアセンターでは、市内各所に小規模なボランティア活動の拠点を設置しており、NPOやNGOが運営を担当。センターとともに、こうした「サテライト」でもボランティアの受け入れを行っているのです。



バケツリレーのように一列に並んで不用な雑木やがれきをみんなで運び出します



さあ、これから被災者のお宅へ。
石巻での活動の始まりです。